

環境調査結果のお知らせ

令和7年9月12日9時から浦ノ内湾の環境調査を実施しました。

概況

検鏡の結果、魚類に対して有害なカレニア・パピリオナセアが最高で21 cells/mL、シャットネラ属が最高で364 cells/mL確認されました。

シャットネラ属は、再び警戒基準値（100 cells/mL以上）に達していますので、十分注意してください。

海や養殖魚、貝類の状態に不安や変化を感じた時は、良く洗ったペットボトルに海水を汲むなどして、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン		
	深度 (m)	水温 (℃)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	カレニア・ パピリオナセア	シャットネラ 属	珪藻
A 中学校前 (3.3m) 【09:32】	0	29.2	24.8	9.3	0	0	14,900
	2	30.8	30.3	13.1	0	0	14,800
	5	29.4	30.9	5.4	0	364	12,200
	10	29.5	31.6	1.6	0	72	1,200
	底層 12.5	29.4	31.9	0.1	0	2	180
B 目ノクソ (3.9m) 【09:41】	0	30.1	26.6	10.8	0	0	-
	2	30.7	30.1	12.4	0	14	-
	5	29.3	30.9	7.1	21	280	-
	10	29.1	31.2	3.5	1	20	-
	底層 15.5	29.1	32.1	0.2	0	1	-
C 光松 (3.9m) 【09:49】	0	29.6	25.9	9.2	0	0	12,000
	2	29.2	30.0	10.2	0	9	10,400
	5	29.1	30.8	6.6	4	20	7,000
	10	28.7	31.1	5.1	0	3	4,900
	底層 17	29.1	32.0	0.3	0	1	1,550
D 大鹿 (4.1m) 【09:56】	0	29.7	27.0	10.1	2	33	-
	2	29.7	30.0	10.5	13	90	-
	5	28.9	30.7	6.8	10	34	-
	10	28.7	31.2	5.1	0	1	-
	底層 16.5	29.1	32.0	0.3	0	1	-

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準（※1）	警戒基準（※2）	主な赤潮発生時期 ※3
				浦ノ内湾
シャットネラ属	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6～8月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死 並びに 二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。



A: 中学校前

B: 目ノクソ

C: 光松

D: 大鹿